

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4071700571
法人名	有限会社 グループホーム みんなの家
事業所名	グループホーム みんなの家
所在地	福岡県直方市大字上頓野3635-1 (電話) 0949-26-6808

評価機関名	福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	H21年 4月 22日
評価確定日	21年 5月 28日

【情報提供票より】 (平成20年 3月 20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 10月 1日
ユニット数	1 ユニット
利用定員数計	9 人
職員数	14 人
常勤	14人
非常勤	人
常勤換算	14人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(100,000 円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200 円	

(4) 利用者の概要 (平成21年3月20日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	1名	要介護2	2		
要介護3	3名	要介護4	2		
要介護5	1名	要支援2			
年齢	平均 85歳	最低	70歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	菅原呼吸器・内科医院
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

天気のいい日は遠くに尺岳が見える。調理専門を採用し、地元で取れた食材や菜園で作った野菜を利用し、安い料金で豊富な献立を利用者に提供している。また、長期外出が可能な利用者には温泉旅行などに行くこともあり、管理者の公私を問わず福祉にかける情熱が伝わってくる家庭的な事業所である。職員の教育にも熱心で働きながら資格を取得できるよう時間的、金銭的にも支援し職員の仕事に対する意欲を損なわない努力をしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価については、昨年度の結果を踏まえ、改善シートを作り、課題に取り組んでいる。昨年の課題であった運営推進委員会は定期的開催し改善を行った。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、職員会議等で意見を出し合い管理者が集約している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的開催し、現状と外部評価について報告を行っている。避難訓練の取組みに対して助言を貰ったり、サービスの向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	家族会を開催し家族や利用者の意見を聞いている。家族の訪問時に管理者や職員が意見を聞くように心がけている。要望等については意見箱を玄関に設置したり職員会議などで対応して改善する仕組みがある。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、地域の行事や近隣の学校行事に参加している。また事業所便りを地域に回覧板し事業所の行事への参加を呼びかけ等地域との交流に努めている。外出傾向のある利用者への対策等協力要請を行っている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は3つの柱からなっており地域密着型の視点を含んだ事業所独自の理念がある。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の朝礼で職員全員で唱和し、理念の確認をしている。また、言葉かけの不十分な点や配慮の無さに関してはそのつど注意し理念の実践に向けて取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支え合い</b>					
3	5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の行事や近隣の学校行事に参加している。また事業所便りを地域に回覧板し事業所の行事への参加を呼びかける等地域との交流に努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員会議等で意見を出し合い管理者が集約している。外部評価については、昨年度の結果を踏まえ、改善シートを作り、課題に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、現状報告を行っている。避難訓練の取り組みに対して助言を貰ったり、サービスの向上に活かしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>事業者は、毎月行政との行き来があり、その都度、事業所の内容を説明し、情報交換や相談を行っている。</p>		
7	10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見制度についてこれまで必要が無かったため、入所時に家族や利用者には説明してない。職員や管理者は外部研修に参加し、職員会議や勉強会で伝達研修を行っている。研修のテキストや内部研修の記録がある。</p>	○	<p>利用者・家族には要不要に関わらず説明を行ってほしい。</p>
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
8	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月に1度請求書送付時に、管理者が一人ひとりの個別の様子を報告書に添えて送っている。写真はそれぞれのアルバムにまとめている。家族会が年に4回開催され、それぞれの暮らしぶりを報告している。金銭管理については、金銭出納帳があり、家族の押印がある。</p>		
9	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会を開催し家族や利用者の意見を聞いている。家族の訪問時に管理者や職員が意見を聞くように心がけ、要望等については職員会議などで対応して改善する仕組みがある。また意見箱を玄関に設置している。</p>		
10	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者は職員会議の後に食事会を行う等楽しみや仕事の励みに繋がるよう考慮している。やむを得ず職員が代わる時は十分に引継ぎ期間を設け利用者や家族に負担がかからないように配慮している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>採用時は年齢や性別資格の有無は問わない。本人の働く意志を重要視している。事業所としては職員の自己実現の夢や希望がかなえられるよう支援している。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>管理者や一部の職員が外部研修に参加し、受講した職員が職員会議で伝達している。研修記録やテキスト・パンフレットなどもあり、研修報告書は、普段、誰でも目を通せるようになっている。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>働きながら資格を取ること出来るよう講習や資格試験を受けたい職員には勤務体制や金銭面でも支援できる仕組みがある。講習や研修の知らせは出来るだけ参加するよう掲示し参加を呼びかけている。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県のグループホーム協議会に加入し、管理者や職員は他の事業所と交流研修等を行いお互いのサービスの質の向上に努めている。</p>		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用前に体験入所を行ったり、職員が入居前に自宅や病院などを訪問し、利用者の情報や様子を把握している。また、即利用になった場合には、家族とよく連絡を取り、必要に応じた対応を行うように努めている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で出来ることを手伝ってもらったり、床の掃除や料理の下ごしらえなど助け合っている。また利用者が職員にねぎらいの言葉をかけたりと支えあう関係が築かれている。		
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	35	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の体調や天気等でスケジュールを決めている。エレクトーンの個人レッスンを受たり本人本位の意向を汲み取っている。また、意思疎通が困難な利用者には、アセスメントの見直しや家族からの情報を聴いている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントシートを基に、家族からの意見を聴き、職員会議で利用者の状況に応じた介護計画を作成している。家族が了承した署名・捺印がある。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3～4ヶ月ごとにモニタリングを行っており、利用者の状態変化や状況に応じて、介護計画を見直している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が入院した際は、本人・家族・医療機関と緊密に連絡を取り、早期退院へ向けて取り組んでいる。通院・送迎などの必要な支援は家族と相談の上柔軟に対応している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望を大切にしながら、かかりつけ医での受診や協力医院の受診を支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期あり方について、入居時や折に触れて事業所が対応し得る最大の支援方法について家族に説明している。また家族や医療機関・職員で話し合い、全員で方針を共有している。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者のプライバシーに関することを他の家族や外来者に対して話さないように周知徹底している。また日常の介護において、利用者を傷つけない様に、目立たず、さりげない言葉かけや対応に配慮している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日のスケジュールはあるが、利用者それぞれの生活歴や性格などに応じて、1人ひとりの生活のリズムを大切に、希望に添って柔軟に対応している。		
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は、一緒に準備や片付けをしている。職員は利用者と同じ食事を同じテーブルで摂っている。また、季節の物を取り入れた食事を用意する等利用者が食事を楽しめるよう支援している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	大まかな入浴時間の設定はあるが、利用者の希望にあわせて柔軟に対応している。入浴を拒否の利用者には、足浴をしたり、季節の入浴剤を使用しリラックスできるよう工夫している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者や家族から希望を聴き一人ひとりの状況を把握している。食事の後片付け・洗濯物たたみ・掃除等役割を活かしている。キーボードの得意な利用者には、レクリエーションの時に演奏してもらおう等、得意分野で力を発揮できるように支援している。		
28	63	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の状況や希望、天候などに配慮して毎日の散歩や月2回の買い物・2～3ヶ月毎の外食・週3回のドライブに行くなど戸外に出かけるように支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	68	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中施錠は行っていない。玄関にはセンサーチャイムが設置されており、利用者の外出傾向を把握している。また近隣にも理解を求め、見まもりや声かけなどをしてもらえる関係を築いている。		
30	73	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急対応マニュアルを作成し、年2回避難訓練を行っている。訓練の際は地域住民に呼びかけをし協力を得ている。非常用食料や飲料水も準備している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
31	79	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事摂取量および水分摂取量の記録が全利用者分ある。1人ひとりの嗜好を把握し、献立に取り入れながら栄養バランスにも配慮している。また年2回医師から専門的なアドバイスを受けている。</p>		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
32	83	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用の居間には床の間があり季節の掛け軸や花が飾られている。また大きい炬燵があり利用者がのんびりくつろげる空間になっている。窓からは近隣の緑をたくさん楽しむことができ、眩しくないようカーテン等で採光の調整がなされている。</p>		
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には利用者1人ひとりの馴染みの家具、家族写真・人形・キーボードなどが持ち込まれていて個人の部屋らしいしつらえになっている。また利用者自身の趣味の作品も飾っており、心地よく過ごせる工夫をしている。</p>		

※      は、重点項目。